

インフォーマション サーキュラー No.20

1975年2月

内 容

I. 第12回運営委員会報告	1
II. DGD編集委員会よりの報告	3
III. 単行書委員会よりの報告	4
IV. 国際発生生物学会について	4
V. 第8回日本発生生物学会大会の準備状況	4
VI. 事務局からのお知らせ	7
VII. 会員の變動	8
新入会員	
退会会員	
住所変更	

日本発生生物学会

名古屋市千種区不老町 (〒464)

名古屋大学理学部生物教室内

事務局よりのおねがい

A. 会費納入のお願い

学会の会計が諸物価の値上り、会費滞納などのため大変苦しくなっています。誠に恐縮ですが会費の前納に御協力下さる様、お願い致します。会費は同封赤色振替用紙にてお払い込み下さい。念のため、年間会費は4,500円です。

加入者名 日本発生物学会

口座番号 名古屋42801

B. サーキュラーへの投稿おねがい

学会員相互の交流のためいろいろな話題をおよせ下さい。学問上のこと(たとえば、意見の交流を求める話題の提供、トピックスの紹介、国際会議の様子、など)、研究室の紹介、学会への意見などいろいろあると思います。ふるって投稿して下さい。なお、原稿は事務局、庶務幹事、あてお送り下されば、幸いです。

C. 最近DGDの別刷代が事務局の銀行、および郵便振替口座に納入される例が2, 3ありました。事務が繁雑になりますので御注意下さる様おねがいます。

インスタント人工海水

アクアマリン

姉妹品 ◇ ボースアクアマリン(海水魚淡水魚同時飼育剤) アクアマリンM
(人口海水用添加液) アクアマリンK (海藻育成液) 其の他

八洲薬品株式会社 水産事業部

大阪市西区京町堀1丁目145 TEL (44) 3036・3037・2191
3038・3039・1422

I. 第12回運営委員会報告

運営委員会が1月13日(月)名古屋の愛知会館において行なわれた。前日よりの豪雪で列車が非常に遅れ大変な中を下記の運営委員の御出席により開催された。

出席者：相山(会長)、石崎、江口、岡崎、岡田(節)、酒井、波磨、柳島、山名、以上運営委員。事務局より、大西、緋田、高橋。

討議及び報告事項の概略は次の通りであった。

§ 1 昭和50年度暫定予算案(別表参照)

財政状態がかなり苦しいので、諸種の検討がなされた。

基本的には、機関紙の売上げ部数及び、会員数を増すことが第一であるため、Vol. 17, №1を国内外の研究機関及び個人に寄贈することが決まりました。現在送付先を検討中ですが、会員諸氏におかれましても、もし送付先についての御意見がありましたら事務局までお知らせ下さい。また入会の勧誘についても、積極的に御協力願えれば幸いです。あわせて学会費の前納制に御協力下さい。

S 50年度暫定予算案

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">前年度繰越し</td> <td style="text-align: right;">2,376,228</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(事務局)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学 会 費</td> <td style="text-align: right;">2,600,000</td> </tr> <tr> <td>DGD 売 上 げ</td> <td style="text-align: right;">2,200,000⁽¹⁾</td> </tr> <tr> <td>文部省助成(S. 50)</td> <td style="text-align: right;">600,000</td> </tr> <tr> <td>岩波単刊本売上げ</td> <td style="text-align: right;">700,000</td> </tr> <tr> <td>DGD 広 告 代</td> <td style="text-align: right;">200,000</td> </tr> <tr> <td>利 息</td> <td style="text-align: right;">30,000</td> </tr> <tr> <td>準 備 金</td> <td style="text-align: right;">100,000</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">小 計</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">5,867,628</td> </tr> <tr> <td>編 集 局 繰 越 し</td> <td style="text-align: right;">72,628</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">6,740,251</td> </tr> </table>	前年度繰越し	2,376,228	(事務局)		学 会 費	2,600,000	DGD 売 上 げ	2,200,000 ⁽¹⁾	文部省助成(S. 50)	600,000	岩波単刊本売上げ	700,000	DGD 広 告 代	200,000	利 息	30,000	準 備 金	100,000	小 計	5,867,628	編 集 局 繰 越 し	72,628	合 計	6,740,251	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">DGD印刷製本費</td> <td style="text-align: right;">3,300,000</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(16(4), 17(1~3))</td> <td></td> </tr> <tr> <td>編 集 局 経 費</td> <td style="text-align: right;">1,500,000</td> </tr> <tr> <td>事 務 局 経 費</td> <td style="text-align: right;">850,000</td> </tr> <tr> <td>第 8 回 大 会 費</td> <td style="text-align: right;">400,000</td> </tr> <tr> <td>要 旨 印 刷 費</td> <td style="text-align: right;">400,000</td> </tr> <tr> <td>運 営 委 員 会 費</td> <td style="text-align: right;">120,000</td> </tr> <tr> <td>サーキュラー印刷費(3回)</td> <td style="text-align: right;">100,000</td> </tr> <tr> <td>第8回大会援助費</td> <td style="text-align: right;">50,000</td> </tr> <tr> <td>振替払込料金</td> <td style="text-align: right;">18,000</td> </tr> <tr> <td>未払金精算</td> <td style="text-align: right;">297,640⁽²⁾</td> </tr> <tr> <td>予 備 費</td> <td style="text-align: right;">104,611</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">6,740,251</td> </tr> </table>	DGD印刷製本費	3,300,000	(16(4), 17(1~3))		編 集 局 経 費	1,500,000	事 務 局 経 費	850,000	第 8 回 大 会 費	400,000	要 旨 印 刷 費	400,000	運 営 委 員 会 費	120,000	サーキュラー印刷費(3回)	100,000	第8回大会援助費	50,000	振替払込料金	18,000	未払金精算	297,640 ⁽²⁾	予 備 費	104,611	合 計	6,740,251
前年度繰越し	2,376,228																																																		
(事務局)																																																			
学 会 費	2,600,000																																																		
DGD 売 上 げ	2,200,000 ⁽¹⁾																																																		
文部省助成(S. 50)	600,000																																																		
岩波単刊本売上げ	700,000																																																		
DGD 広 告 代	200,000																																																		
利 息	30,000																																																		
準 備 金	100,000																																																		
小 計	5,867,628																																																		
編 集 局 繰 越 し	72,628																																																		
合 計	6,740,251																																																		
DGD印刷製本費	3,300,000																																																		
(16(4), 17(1~3))																																																			
編 集 局 経 費	1,500,000																																																		
事 務 局 経 費	850,000																																																		
第 8 回 大 会 費	400,000																																																		
要 旨 印 刷 費	400,000																																																		
運 営 委 員 会 費	120,000																																																		
サーキュラー印刷費(3回)	100,000																																																		
第8回大会援助費	50,000																																																		
振替払込料金	18,000																																																		
未払金精算	297,640 ⁽²⁾																																																		
予 備 費	104,611																																																		
合 計	6,740,251																																																		
<p>(1) 49年度売掛け金約80万を含む。</p>																																																			

§ 2 学会の運営と会則

本学会が日本発生生物学会として発足以来、来年で17年を経過したことになります。その間、徐々に本学会も発展の方向に向っていることは喜ばしいことでありますが、それとともに若干、学会の運営、会則に検討を加えなければならない面で、不備な点が出て参りました。

そのため、“会則一般”の検討を行なうことを運営委員会で決め、次の方々で小委員会を作り、御検討をお願いすることになりました。

江口吾朗、岡田節人、竹内郁夫、前田靖男、丸山工作

運営委員会で議論された主な事項は下記の通りです。①選挙施行細則について ②会費の長期未納者の処理の問題 ③分野の偏りをどう解決していくか ④運営委員及び会長に不測の事態を生じた際の規定がないこと……などの問題点が提起され、昭和51年1月の運営委員会までに一定の結論を出すことを前記小委員会にお願いしました。

§ 3 大会関係について

本年度（第8回）より大会講演者は50年度までの会費を納入した会員に限ることが決められました。したがって50年度会費未納の方（会費は前納制です）、および非会員の方の講演は受けつけないことになりましたので御注意下さい。これは、非会員の方々の大会講演または参加を排除するのではなく、学会の運営、財政問題などを関連して議論された結果で、決定の際に考慮された点は以下の3点に要約されます。1) この2～3年会員数がのびなやんでいするためその増加対策、2) 学会の財政状態の打開、3) 会員と非会員の差が明確ではなく、そのため会員の特典が、はっきりしない。特に大会講演、DGDへの投稿など。

以上ですが会員の皆様の御協力をお願いするとともに、非会員の講演希望者の方々をはじめとして、未会入の方々への勧誘をあわせておねがいする次第です。

§ 4 その他の報告事項は以下の通りです。

第2回運営委員会 1975年1月13日

名古屋愛知会館

報告事項（後述）

- DGD編集主幹報告 (岡田主幹)
- 単行書委員会報告 (金谷委員長)

○国際発生生物学会議について (岡田 節人)

○庶務報告 (高橋庶務幹事)

議 事

○昭和51年度以降の会計対策(会費再値上げの是非, 会員増加の対策, 等々)

○会の運営と会則・選挙施行細則の再検討

○昭和51年度大会開催地の選定

○昭和51年度以降の事務局依頼について

○その他

Ⅱ. DGD 編集委員会

1月18日, 名古屋市愛知会館にて, 岡田, 団, 金谷, 古谷, 石崎, 山名, 柳島, 各委員(順不同), 小嶋幹事, 緋田学会会計幹事, 相山前主幹出席のもとで委員会を開きました。

岡田主幹から1974年度の報告があり, ついで本年度および将来の計画について討議を行いました。

1) 1975年度DGD編集幹事は引き続き小嶋氏(名大, 菅島臨海)に依頼, 印刷は荒川印刷(名古屋)で行なう。

2) 1975年度の暫定予算を決めた。1974年度より約2割増。印刷費, 人件費の値上げは止むをえない。但し, 事務費を多少へらすことができる。

3) 従来行なってきた論文審査の費用支払いをやめる。

4) DGD論文の引用論文リストの文献タイトルの記載をやめる。

5) VoI. 17, №1は1月20日頃編集を完了し印刷に回付, 3月末までに完成させる。以後定期的に刊行し, 年間4回刊行のスケジュールを確立する。

6) 将来, 寄稿論文数の増加に伴って, 2段組印刷, あるいは年6回刊行などの計画をたてる必要があるかもしれない。これは学会の経済状態と関連することで慎重に検討すること。

なお, DGD定期購読者をふやすべく努力をすることになりました。この件については, 柳島直彦氏(名大・理・生物)にアレンジを依頼しましたので, 会員各位で, 購読先として可能性のあるところを御存知の方は是非, 柳島宛にお知らせ下さい。

岡田主幹 記

Ⅲ. 単行本委員会よりの報告

昨年4月末単行本編集委員会を行ない、(京大生物生理学教室において)第5集としては「受精の生物学」と題して、微生物、原生動物をはじめ哺乳類にいたる受精現象をまとめた本を刊行することに決めました。編集担当としては、金谷と毛利があたります。幸いこの方面の有力な執筆者の協力が得られ、現在原稿もほぼ集まり、これから編集業務に入る予定です。

Ⅳ. 1977国際発生生物学会議について

1977年に東京で開催予定の国際発生生物学会議についての準備状況に関しては、前回、前々回のサーキュラーに掲載した通りであります。現在、Local Committeeとしては、代表、団勝磨、幹事、寺山宏としてアレンジされています。一方、この会議のプログラムについて、国際発生生物学会本部直属のScientific Organization Committeeが設けられ、J. D. Ewert(米、Baltimore)と小生とがco-chairmanとして任命されましたことは、前回のサーキュラーで報告しました。先に本部から発行されましたI. S. D. B.-Newsletterでもこの件を報告し、1977年の会議で採用すべきSymposium, workshopのテーマなどについて意見を求めましたところ、すでにアメリカ側からいくらかの反応を受けております。わが国の研究者からも意見を小生宛お寄せ下さるようお願いします。なおScientific Organization Committeeの第一回会合を、来る4月上旬、Woods Hole(米)で開催しますので、特にそれ以前に御意見を頂ければ幸いです。

岡田節人 記

Ⅴ. 日本発生生物学会、第8回大会の御案内

すでにサーキュラー№19でお知らせしましたが、第8回大会は5月29日(木)、30日(金)の2日間仙台に於て行なわれます。準備委員では次のとおりスケジュールの大要を決め

ました。多くの方々の御参加をお待ち致しております。

1. 大会日程

	5月28日(水)	5月29日(木)	5月30日(金)
午前		一般講演	一般講演
午後	運営委員会	一般講演	一般講演
夕刻		招待講演	

なお、一部変更もありえますので御了解下さい。

2. 会場

宮城県労働福祉会館(仙台市上杉1丁目)

3. 参加ならびに講演の申し込み

- a) 参加希望者はサーキュラー別紙添付の申し込み票に必要事項を記入の上、大会参加費 2,000円(学生、院生1,500円)をそえて、3月8日(必着)までに

〒980 仙台市荒巻字青葉

東北大学理学部生物学教室

竹内拓司

あてお申込み下さい。なお送金は定額小為替(宛名、竹内拓司)を御利用下さい。

- b) なお本年度より、講演者は50年度までの会費を納入した会員に限ります。したがって、会費未納の方、および非会員の方の講演は受けつけませんので御注意下さい。

- c) 講演希望者には所定の原稿用紙を郵送しますので、御記入の上、上記あてに御送付下さい。

- d) 講演は1人1題です。但し共同研究者として加わっておられる場合はこの限りではありません。

- e) 講演時間は討論を含めて1題20分とします。

4. 講演要旨集

講演要旨集は、大会への参加の有無にかかわらず、会員全員に配布致します。

5. 宿 泊

大会準備委員会では宿舎のあっせんは致しませんが、下記の宿舎が便利と思いますのでお知らせ致します。

a) 共済関係

仙台共済会館(国家公務員共済)

〒980 仙台市錦町1-8-17

翠風荘(国家公務員共済)

〒980 仙台市宮町4-1-3, 22-4469

勾当台会館(地方公務員共済)

〒980 仙台市国分町3-9-6, 22-3301

教育会館(教職員組合)

〒980 仙台市柏木1-2-45, 71-9340

都市センター

〒980 仙台市国分町3-10, 27-2611

b) ビジネスホテル

仙台ビジネスホテル

〒980 仙台市上杉1-4-25, 61-5711

グリーンホテル

〒980 仙台市錦町2-5, 21-4191

第一ホテル

〒980 仙台市中央2-3-18, 61-6651

仙台ロイヤルホテル

〒980 仙台市中央4-10-11, 27-6131

6. その他について

大会についてのお問合わせ、御意見は準備委員会までお申し出下さい。

〒980 仙台市荒巻字青葉

東北大学理学部生物学教室

日本発生物学会第8回大会準備委員会 Tel 0222-22-1800

総務担当 樋渡(内線 4245)または 竹内(内線 4276)

Ⅵ. 事務局からのお知らせ

§ 1 会員数について

(昭和49年12月20日現在)

会員総数 492

新入会員	26	国外機関購入	11
退会会員	38	国外個人会員	17
国内機関購入	50	会員	1

§ 2 会費の納入状況

(昭和49年12月20日現在)

<会費滞納者>

総会員数 492名

昭和44～49年滞納者	3名	1%
“ 45～49 “	1名	0.2%
“ 46～49 “	4名	1%
“ 47～49 “	10名	3%
“ 48～49 “	23名	5%
“ 49 “	92名	19%

§ 3 昭和51年度以降の事務局の依頼について

昭和49, 昭和50年度の2年間事務局は名古屋大学理学部生物教室でお引受けしておりますが, 51年度以降の事務局をどこにするか考えなければならなくなりました。今回の運営委員会においては結論は出ず, しばらくの間検討を行なうことになりました。

§ 4 昭和51年度第9回大会の予定地

第9回大会の候補地として, 大阪地区, 東京地区があげられ, 次回運営委員会で決定され総会に報告の予定。

Ⅶ. 会 員 変 動

< 新入会員 >

氏 名	所 属	テ ー マ な ど
加藤 淑裕	三菱化成生命化学研究所	①細胞組織間相互作用, 細胞周期の解析 ②ニワトリ胚培養細胞
高岡 実	名古屋大・教養	①昆虫の変態機構 ②ショウジョウバエ, カイコ
高橋 進	名古屋大・理・生物	①昆虫ホルモンの作用機構 ②昆虫
武内 孝平	大阪教育大・生物	
中西 敏昭	兵庫県立立川西緑台高校	
中西美智夫	吉富製薬株式会社研究所	
新宮 暁子	残留農薬研究所内	①催奇形学 ②Rat, Mouse, Hamster, Rabbit, etc.
日原 冬生	(〒115) 東京都北区 西が丘1-10-5	
広島 忠芳	金沢医科大・教養・生物	①海綿の分離細胞による再凝集 ②ホソナガザラカイメン
堀 功	" " "	①動物の結合組織, 基底膜の超微構造, 形成機序, 機能 ②プラナリア, ムラサキカイメン, ホソナガザラカイメン
吉崎 範夫	岐阜大・教養・生物	①両生類における孵化について ②カエル
若杉 昇	名古屋大・農・家畜育種	①マウスの初期発生, ウズラ胚における形態形成 ②マウス, 日本ウズラ
VASSILI KIORTSIS	Zoological Laboratory And Museum— University Of Athens—Greece	
H. A. Schneiderman	Univ. California, Irvine.	①Developmental genetics; pattern-formation; insect hormones ②Drosophila,

< 所属・住所変更 >

	<旧>	<新>
石田 寿老	埼玉大・理工・生化	東邦大・理・生
碓井 益雄	東京教育大・理・動	(〒112) 東京都文京区千石 2-33, 1-104号

岡田 克弘	徳島大・教養・生
河本 典子	岐阜大・医・1生理
木戸 哲二	金沢大・理・生
佐藤 矩行	東京大・理・動
沢野 啓一	東京都立大森高校
高橋 敬	The Public Health Reseach Institute of the City of New York
高橋 延昭	北大・水産・淡水増殖
塚原 潤三	名古屋大・理・臨海実
星 元紀	東京大・教養・生
安富 真澄	名古屋大・理・生
山崎 正博	東北大・医・3解
山田 明男	大阪市立衛生研究所
山本 時男	名古屋大・理・生

(〒772) 鳴門市撫養町岡崎東9-3
(〒464) 名古屋市千種区東山通75-34
金沢医科大・教養
京都大・理・動
東京都立日本橋高校
関西医科大
札幌医科大・生理・第1講座
埼玉大・教養・生
北大・低温科学研究所・生化学部門
愛知医科大
山形大・医・1解
大阪市立環境科学研究所
名城大・生

< 退会会員 >

芦田 讓治	愛媛大・本部
池田 高良	長崎大・医・第1病理
伊藤 道夫	名古屋大・理・生
岩井 浩一	群馬大・内分泌研
白井 英夫	“ “
浦野 誠子	川崎市多摩区生田2047-4
江口 保暢	大阪府立大・農・家畜解剖
小林 晶	大分市南春町5組
小林 直正	同志社大・生
菅井 道三	名古屋大・理・生
滝本 敦	京都大・農
立松 洋子	東京都練馬区関町4-687

電々公社練馬関町アパート6-1-4

坪田 宏	神戸大・教養・生
平井 越郎	仙台市1番町16-23
三田 昉	大正製薬KK・薬理研究室
宮田 尚雄	名古屋大・理・生
柳沢嘉一郎	都立アイソトープ研究所
矢原 宮吉	鐘紡(株) 薬品研究所
山田 康之	京都大・農・農芸化学

賛助会員

三菱化成生命科学研究所